

# 朝日庄内

# ふれあいの風

第 1 号

平成16年11月16日

発行

朝日庄内森林環境保全  
ふれあいセンター

## 朝日山地森林生態系保護地域 合同パトロールを実施

10月2日(土)と3日(日)、朝日山地森林生態系保護地域の合同パトロールを実施しました。

朝日山地森林生態系保護地域は、7万haにも及ぶ広大なエリアですので、森林官等による巡視のほか、登山者、共用林組合、釣り人等の各団体の協力得て、ボランティア巡視を行うことが管理計画書に定められています。これを受け、今年度巡視員を募集し63名の応募を得て、7月13日に巡視員発足式を行いました。

この合同パトロールは、巡視レベルの統一を図るために実施しました。

もっと早く行った方がいいのではないかと感じている方も少なくないと思います。実は7月17日に計画したのですが、活発化した梅雨前線による集中豪雨のために取り止めたところです。

今回も晴天には恵まれませんでしたが、総勢26名で予定した3ルートのパトロールすることが出来ましたので、コース毎にその概要を紹介します。

### 《大鳥～以東岳コース》

このコースは、朝日村大鳥から大鳥池を経て以東岳に至るもので、巡視員：10名、国有林：3名の計13名が参加しました。そのうち日帰りが8名、一泊二日が5名でした。

大鳥池の手前には、つづら折りの登山道がありますが、ショートカットしたところが数多くみられ、中にはショートカットの方が本道のようになっているところがあることから、登山者の一般的なマナーとして、林地保全面からも対策が必要ではないかと、参加者から問題提起されました。

### 《朝日鉱泉～大朝日岳ルート》

このコースは、朝日町の朝日鉱泉から中ツル尾根を経て大朝日岳に至るもので、巡視員：2名、国有林：4名の計6名が参加し、全員一泊二日で



(大鳥ルート：登山者にパンフレットを配付)

した(大朝日小屋泊)。

このコースでは、ビニール系のゴミが見受けられたので回収に努めました。また、中ツル尾根唯一の水場である長命水までの歩道がブナの倒木により通行出来ない状況になっていました。



(朝日鉱泉ルート：ゴミの回収状況)

### 《針生平～平岩山コース》

このコースには、巡視員：2名、国有林：5名の計7名が参加し、日帰りが4名、一泊二日が3名でした。

荒川等に架かる吊り橋が4箇所設置されていますが、奥にある3箇所の吊り橋は一本丸太の吊り橋で渡るときには手元足元に十分注意しなければなりません。

また、蛇引の清水分岐付近にあるブナの幹が

強風により上部で折損し隣接するブナに寄りかかるようになっているので、下方を通過する際には上部の状況を確認する必要があります。



(針生平ルート：角植小屋手前の吊橋)

各ルートとも 2日早朝に出発し、登山者にマナーアップのための冊子を配付するとともに、ゴミを拾い集めたり、登山道の状況や高山植物の盗掘などのチェックを行い、森林生態系保護地域の保全に努めました。

参加していただきました巡視員、局署の皆さん、悪天候の中のパトロールお疲れ様でした。

来年度も合同パトロールを行いたいと考えていますので、よろしくお願ひいたします。

## 朝日山地森林生態系保護地域図



森林生態系保護地域	森林管理地		合計
	東北	関東	
保存地区	15,535.80	12,293.12	27,828.92
保全利用地区	32,699.08	9,425.65	42,124.73
合計	48,234.88	21,718.77	69,953.65

## 第5回森林倶楽部 紅葉の葉山登山と肘折温泉

当センターでは、山形県内で開催される森林倶楽部の支援を行うこととしており、これまで6月26日の「初夏の西吾妻登山」について支援を行っています。

今年度の森林倶楽部はこれまでいずれも天候に恵まれず雨に泣かされてきましたが、今回は天候に恵まれ、加えて月山の初冠雪が眺められるという絶好の山行き日和となりました。

会員：34名、スタッフ：10名の総勢44名で、山形駅と県庁前からバスで一路葉山を目指しました。登山道入口付近のブナの天然林は紅葉(黄葉)して歓迎してくれ、1時間弱の登山が始まりました。標高が上がるにつれ植生も変化し、紅葉の色も鮮やかさを増してきます。

トンボ沼から目的地の奥の院までは最後の急坂をもう一頑張りです。

山頂は奥の院から20分程度先になりますが、眺望や休憩スペースから奥の院までとしました。

奥の院では班毎に集合写真を撮影し、少し早い昼食が終わる頃には山頂付近にガスが出て、幻想的な雰囲気を感じ出してくれました。

連日の降雨により登山道が柔らかくなっているために、特に下りは滑らないように注意しながら下山開始。それでも何人かのズボンには土が付いていましたが、これも山の思い出です。

予定した行程よりも遅れてきたために、途中散策予定のブナの二次林はバスの中から堪能、バスに揺られて肘折温泉に向かい「いでゆ館」の温泉浴でリフレッシュして帰路につきました。



(初冠雪の月山をバックに)



(説明に聞き入る参加者)

## ウッドフェスティバル2004に 初参加

— 山の銘水が人気 —



(山の銘水は子供たちにも人気)

10月16日(土)と17日(日)、鶴岡市の小真木原公園で「ウッドフェスティバル2004」が開催され、当センターも後援し、出展しました。

この催しは、「くらしに生かそう、木のよさを」テーマに山形県と鶴岡市が主催して行われたもので、庄内地域の収穫の秋を彩るイベントとして定着しているものです。

当センターのブースでは、業務内容や活動状況等の写真パネル等の展示やパンフレットを配布するなどしてPRに努めるとともに、「山の銘水コーナー」と銘打って、大朝日岳の金玉水・銀玉水、以東岳の碧玉水を取水し(各20リットル)試飲するコーナーを設けたところ、大変評判がよく二日間とも昼過ぎには無くなってしまいう盛況ぶりで、当センターのPRに大いに貢献することができました。

また、山の銘水の人気投票では、以東岳の碧玉水が最も人気がありました。



(熱心に見入る来場者)

## 朝日森林生態系保護地域 モニタリング調査

— 森林植生、溪流魚 —

朝日山地森林生態系保護地域における入林による影響について議論が分かれていることから、適切な森林利用のあり方を検討する資料とするために、森林植生調査と溪流魚調査を行っています。

今年度は2年目に当たり、森林植生調査は前年に引き続き行い、溪流魚調査はイワナを捕獲し各種データを取り、タグを付けて放流するものです。

いずれの調査も(社)日本森林技術協会に委託し、関係団体の協力を得て行いました。

森林植生については、10月4～8日に行われ、保存地区と保全利用地区のプロットで、下層木の毎木調査、下層植生群落調査を行いました。

溪流魚調査は、6月と9月の2回行いました。

保存地区と保全利用地区に設定したプロットでエレクトロフィッシャーという電撃捕獲機を使用してイワナを捕獲し、アルコールで麻酔をかけ体重、体長などを測定後、プラスチックタグを付けて放流し、中1日置いてから2回目の捕獲と放流を行い生息個体数を推定しました。



(エレクトロフィッシャーによる捕獲状況)



(背びれ付近にタグ(黄色)を付けたイワナ)

## 最上地域で開催されたナラ枯れ被害対策 研修会に参加

11月4日(木)、山形県最上総合支庁が主催した研修会が戸沢村内の国有林で開催されました。

ナラ枯れ被害は、カシノナガキクイ虫(略称カシナガ)が樹幹内に持ち込む通称ナラ菌の繁殖により、通水阻害を起こし、枯死するものです。

日本海側を中心に多くの府県で発生し拡大しています。山形県では各種の防除や予防手法の開発に取り組んでいます。

今回の研修会では、①枯死木の立木に薬剤を注入してカシナガを殺虫する方法、②殺虫剤と接着剤により枯死木内のカシナガを殺虫する方法、③殺虫剤と接着剤により被害を予防する方法、④防カビ剤を樹幹注入し被害を予防する方法のデモンストレーションが行われました。



(防カビ剤の樹幹注入状況)

## 高館山でナラ枯れ被害と 防除作業の見学会を開催

11月6日(土)に鶴岡市の高館山で、庄内地域で急速に被害が拡大している「ナラ枯れ」の見学会を開催しました。

当日の参加者は約20名で、講師をお願いした山形大学農学部林田助教授から被害発生メカニズムや被害の状況などの説明を受けた後、森林組合による防除作業(薬剤注入)のデモンストレーションを見学しました。

引き続き、前年度、庄内署で被害により発生したギャップに郷土樹種を植栽した箇所を見学しました。

参加者からは、被害の大きさに驚くとともに早期対応を求める意見がありました。



(講師の林田先生の説明を聞く参加者)

### 〈ふれあいセンターの広報誌創刊〉

4月に全国10箇所新設された森林環境保全ふれあいセンターも早いもので7ヶ月が経過しました。それぞれのふれあいセンターで地域の独自性を持った個性的な取組がなされているものと思います。

当センターは、朝日山地森林生態系保護地域という広大なエリアとボランティア活動が活発に行われている高館山を含む庄内海岸林を主な活動エリアとして取り組んでいます。

新しい組織であるがための悩みもありますが、自分たちで考え選択し実行することができるフレキシブルな面を持ちながら各種の取組を進めてきました。これも関係する諸団体の皆様、局、森林管理署の特段のご理解とご協力の賜と感謝しているところです。

この度、拙い私たちの取組を広報誌「朝日庄内ふれあいの風」として発行することとしました。

さわやかな風のように皆様のもとに届けることができるような紙面づくりに心掛けていきます。

一読していただければ幸いです。

所長 川村 一憲

### 編集後記

ようやく広報誌を発行することが出来ました。

年4回程度の発行を目指しますので、よろしくお願いたします。近々、HPも立ち上げます。

それにしても、今年は自然災害が多い年でした。梅雨前線の停滞・発達、相次ぐ台風の上陸、大地震などで全国各地に大きな被害をもたらしました。特にこれから雪の季節を迎える地域の一日も早い復旧を願うばかりです。(K)

### 発行

東北森林管理局  
朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター

〒997-0404  
山形県東田川郡朝日村下名川字村下97

TEL : 0235-58-1806

FAX : 0235-58-1807